

2025 年 2 月 5 日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	内堀麻美	所属	通信教育課程研究室
		職位	助教

研究課題	イタリア地方の建築物と生活と風土について
研究先機関	バチカン美術館、サクラダファミリア、他：商店街、市場、公共機関などの調査予定
主な滞在地 (国・都市名)	イタリア(ローマ、シチリア)・スペイン(バルセロナ、サンセバスチャン)
渡航日程	24 年 12 月 22 日 ～ 2025 年 1 月 1 日 (11 日間)
研究目的・理由	日本とイタリア・スペイン地方の風土の違いの研究。 日用品、公共機関(商店街、市場・公園・駅)、 建築物などを対象に、文化・風土の違いを調査する。 現地の博物館を見学する。
研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等)	2025 年の個展にて研究成果発表予定。

研究内容

今回の海外研修では今日までに影響を与えている彫刻、絵画、建築、また思想などの調査を行った。

イタリアローマでは、バチカン市国のバチカン美術館、街の教会、パブリックアートを視察した。

展示の中にはルネサンス以降の古代エジプトや古代ローマのものまであり古代文化を讃え、受け継いでいるのを感じた。古代ギリシアの大理石彫像の最高峰と言われている「ラオコーン」、それに影響を受けたルネサンスの彫刻家であるミケランジェロの彫刻、システリーナ礼拝堂の壁画、同じ時代に活躍をしていたのラファエロの「アテネの学堂」と、美術の黄金期の思想の根源から最盛期までがわかるように通して鑑賞でき、美術の脈絡を鑑賞そして肌で感じた。

スペインではアントニオ・ガウディの建築をメインに町を視察した。多くの優れた建築があるバルセロナでやはり異彩を放っていた。直線的な建築が多いなかガウディの建築は自然からオマージュをしており、サクラダファミリアの内部は今回の視察で回ってきた教会とは違い自然光が多く差し込んでいた。または内部はアーチ状の構造で構築されており、人工的な直線ではなく自然の中にいるような暖かさと落ち着きを感じた、これは今回の視察で回ってきた教会にはない印象であった。完成してまもないためか、建築資材で使われている石は白く、より一層内部が明るく感じた。建設途中の教会に立ち会えることはなかなか無い体験であった。

自然災害がないため古くからの美しいものが残った、ヨーロッパの石造りの街、またその美しさを次の時代へつなげていき、古くからのものへの敬意があることを感じた。

大学授業における
研究成果の還元

授業担当が無いため授業で直接の指導はできないが、美術をなまぶとは
どういうことなのかを考え、助教として指導に貢献したい。
また自身の研究には上記の内容を還元していきたいと思います

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
12月22日	羽田（日本・東京）	12月23日	イタリア・ローマ	教会、旧市街など調査	1日
		12月24日	イタリア・ローマ	教会、市内、バチカン 美術館視察	1日
12月24日	イタリア・ローマ	12月25日	イタリア・タオル ミナ	教会、市内、旧市街の 調査	1日
12月25日	イタリア・タオルミ ナ	12月26日	イタリア・カター ニア	市内、旧市街の調査	2日
		12月27日	イタリア・カター ニア	劇場跡など視察	
12月27日	イタリア・カターニ ア	12月28日	スペイン・バルセ ロナ	サクラダ・ファミリア 視察	1日
		12月29日	スペイン・バルセ ロナ	グエレ公園、カサ・ミ ラ視察	1日
12月30日	スペイン・バルセロ ナ	12月31日	スペイン・サンセ バスチャン	旧市街・建築の視察	1日
12月31日	スペイン・マドリー ド	1月1日	羽田（日本・東京）	市内視察	1日
備考					

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。

※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。